

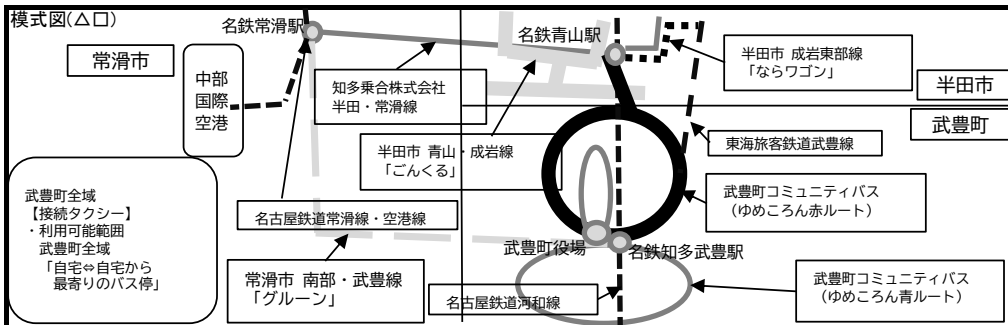
令和5年度補助系統別事業評価票(ゆめころん(赤ルート)線) 議案第1号

1. 補助システムの概要(△)

系統名	運営主体	運行事業者	区間	キロ程	運行回数	関係市町村
ゆめころん(赤ルート)	武豊町	知多乗合株	武豊町役場~イオン半田店~武豊町役場	12.8 km	9.0 回	半田市 武豊町 0 0
細系統				km	回	
				km	回	
				km	回	

※「細系統」には、補助上同一系統とみなされている系統について、系統ごとの情報を記載(系統名、区間は他の系統と違いが分かるよう記載)

接続の状況(△□)
<p><接続する系統></p> <p>名古屋鉄道河和線、東海旅客鉄道武豊線 半田市 青山・成岩線「ごんくる」 半田市 成岩東部線「ならワゴン」 知多乗合株式会社「半田・常滑線」 常滑市 南部・武豊線「グルーン」</p> <p><接続される系統></p> <p>武豊町コミュニティバス(ゆめころん青ルート) 武豊町接続タクシー(令和4年10月改編実施・利用可能範囲を「自宅⇄自宅から最寄りのバス停」に変更)</p>



2. R5年度の運行状況

事業実施の適切性	
計画どおり運行されたか(△)	<p>評価 計画どおりか。そうでない場合は理由</p> <p>A 補助対象期間の開始日から、天候等による影響以外での運休や大幅な遅延もなく、所定の事業計画どおりの運行が実施されている。</p>

《参考数値》 主要指標の推移(△)						
年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	
年間利用者数【人】	49,230	39,436	39,655	41,667	50,361	
平均乗車密度(実績)	4.1	2.1	1.9	5.4	6.1	
輸送量	(計画)	32.4	21.1	36.9	18.4	16.7
	(実績)	44.2	18.4	16.7	48.6	53.6
収支率(実績)	27.00	12.30	9.40	37.69	23.15	

目標・効果達成状況	
評価	<p>目標の達成状況(△)</p> <p>目標 43,000 実績 50,361 達成率 117.1%</p> <p>要因 ・新型コロナウイルス感染症の第5類移行までの間、「車内会話控える・マスク着用」の車内掲示による呼びかけ ・無料乗降券交付事業等の継続実施 ・令和4年10月開始のコミュニティバス(グルーン)の運行開始、名鉄知多武豊線の乗り入れによる接続 ・町広報、令和4年10月新たに作成した時刻表を全戸配布にて情報発信</p>

市町村の所見、理由分析、認識(□)			
市町村名:	半田市	市町村名:	武豊町
市町村名:	0	市町村名:	0

複数市町村を跨ぐ系統としての役割			
指標(市町村を跨いでの利用)	<p>市町村を跨ぐ利用者数(△) 1,891 人/月</p> <p>全利用者に占める率(△) 22.5 %</p> <p>特記事項 令和4年10月から令和5年9月の「イオン半田店」「青山駅」停留所の乗降者数の合計</p>	<p>利用状況及び所見(△)</p> <p>市町村名: 半田市</p> <p>利用者の多い青山駅に屋根付きバス停を設置し、環境整備を図ったこと、また、乗り入れを行うバス路線を設置したこと、利用者の定着に寄与していると考え。</p>	<p>住民の利用状況(□)</p> <p>市町村名: 武豊町</p> <p>路線全体の利用者の2割以上が半田市への乗り入れを行っており、利用者にとっても広域での移動が可能となっている。令和4年10月から令和5年9月の期間において、上記2ヶ所の停留所の合計乗降者数は、対前年同期間比、004人増となり、利用者の増加・定着につながっている。今後も広域的な交通網としての確保維持が必要である。</p>

《参考数値・情報》 その他、運行改善や利用促進に参考となる数値・情報		
運営主体【断面輸送量、競合系統合算断面輸送量、主な停留所乗降者数等】(△)	<p>停留所別乗降者数の実績を見ると、鉄道(名鉄知多武豊駅、名鉄青山駅、JR武豊駅)での乗降者数の割合が4分の1以上を占めており、鉄道利用のニーズが高いことがわかる。今後も毎年利用実態を確認していく。また、令和4年10月に新たに作成し、全戸配布した時刻表においては、周辺の電車・バスの路線図を掲載し、半田市公共交通バス路線も掲載している。利用者からは、半田市の路線と接続していることは利便性が高いという声を頂いている。</p>	<p>沿線市町村【沿線の状況等、すべての沿線市町村一括記載】(□)</p> <p>(半田市) R4,10には、武豊町とともにイオン半田店のイベントに出店し、イオンへ乗り入れているコミュニティバス車両の展示、乗車体験等を通して、子どもから高齢者まで幅広い世代の方にバス交通全体の利用促進を図った。(イベント参加者600人以上)</p> <p>バスロケーションシステム(Webサイトにアクセスすることで、バスがどこにいるか、運行状況をリアルタイムで確認することのできるシステム)の導入、また、バス情報のGTF S化の完了によって、符合・乗継環境の向上による利用者拡大を図った。</p>

3. R5年度の取組状況

直近の事業評価結果(△)		市町村の取組(□)				
A	事業評価を踏まえ 取組	運営主体の取組(△)	市町村名: 半田市	市町村名: 武豊町	市町村名: 0	市町村名: 0
改善点とした事項(△)		・令和5年10月が高齢者を対象とした無料乗車券発行事業及び回数券発行事業を開始し、利用の定着と利用者数の確保に繋がっているため、継続実施している。 ・新型コロナウイルス感染症の第5期以降は、「車内会話を控える」マスク着用、利用者の満足度や要望等を踏まえて、利用回数アンケートを実施(累計)。 ・町広報や令和4年10月に新たに作成した、時刻表の全戸配布による情報発信。 ・住民団体の認知度向上及び乗客増進を図るため、コミュニティバス・接続タクシーの認知度や利用有無等に関するアンケート調査を実施。	・高年齢者や高齢者を対象とした無料乗車券発行事業及び回数券発行事業を開始し、継続実施している。 ・新型コロナウイルス感染症の第5期以降は、「車内会話を控える」マスク着用、利用者の満足度や要望等を踏まえて、利用回数アンケートを実施(累計)。 ・町広報や令和4年10月に新たに作成した、時刻表の全戸配布による情報発信。 ・住民団体の認知度向上及び乗客増進を図るため、コミュニティバス・接続タクシーの認知度や利用有無等に関するアンケート調査を実施。	・高年齢者や高齢者を対象とした無料乗車券発行事業及び回数券発行事業を開始し、継続実施している。 ・新型コロナウイルス感染症の第5期以降は、「車内会話を控える」マスク着用、利用者の満足度や要望等を踏まえて、利用回数アンケートを実施(累計)。 ・町広報や令和4年10月に新たに作成した、時刻表の全戸配布による情報発信。 ・住民団体の認知度向上及び乗客増進を図るため、コミュニティバス・接続タクシーの認知度や利用有無等に関するアンケート調査を実施。	・高年齢者や高齢者を対象とした無料乗車券発行事業及び回数券発行事業を開始し、継続実施している。 ・新型コロナウイルス感染症の第5期以降は、「車内会話を控える」マスク着用、利用者の満足度や要望等を踏まえて、利用回数アンケートを実施(累計)。 ・町広報や令和4年10月に新たに作成した、時刻表の全戸配布による情報発信。 ・住民団体の認知度向上及び乗客増進を図るため、コミュニティバス・接続タクシーの認知度や利用有無等に関するアンケート調査を実施。	
関係者の連携等(△□)		住民団体の武豊町コミュニティバス・生活の足を考える会と定例会実施及び産業まつりにて協力し、コミュニティバス・接続タクシーの認知度や利用有無等に関するアンケート調査を実施。	住民団体の武豊町コミュニティバス・生活の足を考える会と定例会実施及び産業まつりにて協力し、コミュニティバス・接続タクシーの認知度や利用有無等に関するアンケート調査を実施。	住民団体の武豊町コミュニティバス・生活の足を考える会と定例会実施及び産業まつりにて協力し、コミュニティバス・接続タクシーの認知度や利用有無等に関するアンケート調査を実施。	住民団体の武豊町コミュニティバス・生活の足を考える会と定例会実施及び産業まつりにて協力し、コミュニティバス・接続タクシーの認知度や利用有無等に関するアンケート調査を実施。	

4. 今後の課題

課題と認識している事項		沿線市町村(□)			
運営主体(△)	市町村名: 半田市	市町村名: 武豊町	市町村名: 0	市町村名: 0	
①目標の達成状況に関する課題 目標を達成しているが、利用の定着と利用者数の確保に引き続き努める。 ②地域公共交通計画(令和4年4月策定)に基づく各事業の適切な実施 ・交通サービスの確保維持、向上 ・接続タクシーへの接続による交通不便地域の対策 ・公共交通利用への転換の推進 ・住民団体等との協働 ・時代の変化への対応	引き続き、利用者が安心してバス利用できる環境を整備する必要がある。 青山駅は半田市2路線、武豊町1路線、民間1路線の計4線の乗継拠点となっているため、乗り継ぎに関する情報発信を強化する必要がある。 R7春の市立病院移転に向けて、路線再編を検討するとともに、関連路線との接続を見直す必要がある。	①目標の達成状況に関する課題 目標を達成しているが、利用の定着と利用者数の確保に引き続き努める。 ②地域公共交通計画(令和4年4月策定)に基づく各事業の適切な実施 ・交通サービスの確保維持、向上 ・接続タクシーへの接続による交通不便地域の対策 ・公共交通利用への転換の推進 ・住民団体等との協働 ・時代の変化への対応	①目標の達成状況に関する課題 目標を達成しているが、利用の定着と利用者数の確保に引き続き努める。 ②地域公共交通計画(令和4年4月策定)に基づく各事業の適切な実施 ・交通サービスの確保維持、向上 ・接続タクシーへの接続による交通不便地域の対策 ・公共交通利用への転換の推進 ・住民団体等との協働 ・時代の変化への対応	①目標の達成状況に関する課題 目標を達成しているが、利用の定着と利用者数の確保に引き続き努める。 ②地域公共交通計画(令和4年4月策定)に基づく各事業の適切な実施 ・交通サービスの確保維持、向上 ・接続タクシーへの接続による交通不便地域の対策 ・公共交通利用への転換の推進 ・住民団体等との協働 ・時代の変化への対応	
運行事業者(△)					
高齢者を対象とした無料乗車券発行事業及び回数券発行事業の更なる周知による利用の定着と利用者数の確保。更なる利用者数確保のため、無料対象者以外の層(若年層)に対する利用を促すPR。キャッシュレス決済等、時代の変化への対応。					

5. 今後の取組

課題に対応した取組、その他の利便性の向上、利用促進の取組		市町村の取組(□)			
取組時期	運営主体の取組(△)	市町村名: 半田市	市町村名: 武豊町	市町村名: 0	市町村名: 0
R6年度、R7年度に行う取組	①利用促進事業実施(無料乗車券等) ・町広報紙面を活用した「コミュニティバス(不定期)」による情報発信 ・運転免許証の自主返納の呼びかけ ・無料対象者以外の層(若年層)に対するコミュニティバス利用の呼びかけ ・時刻表の配布(継続) ・接続する広域的な交通ネットワークの情報発信 ②地域公共交通計画(令和4年4月策定)に基づく事業の適切な実施	バスの安全利用及び新型コロナウイルス感染症対策を目的に、引き続き、コミュニティバス車内の抗菌・抗ウイルスコーティングを実施する。 停留所の利用需要や、市内情勢を考慮して、停留所の新設や、経路の変更を検討する。	①利用促進事業実施(無料乗車券等) ・町広報紙面を活用した「コミュニティバス(不定期)」による情報発信 ・運転免許証の自主返納の呼びかけ ・公共交通を活用する生活スタイルへの転換の呼びかけ ・無料対象者以外の層(若年層)に対するコミュニティバス利用の呼びかけ ・時刻表の配布(継続) ・接続する広域的な交通ネットワークの情報発信 ②地域公共交通計画(令和4年4月策定)に基づく事業の適切な実施	①利用促進事業実施(無料乗車券等) ・町広報紙面を活用した「コミュニティバス(不定期)」による情報発信 ・運転免許証の自主返納の呼びかけ ・公共交通を活用する生活スタイルへの転換の呼びかけ ・無料対象者以外の層(若年層)に対するコミュニティバス利用の呼びかけ ・時刻表の配布(継続) ・接続する広域的な交通ネットワークの情報発信 ②地域公共交通計画(令和4年4月策定)に基づく事業の適切な実施	①利用促進事業実施(無料乗車券等) ・町広報紙面を活用した「コミュニティバス(不定期)」による情報発信 ・運転免許証の自主返納の呼びかけ ・公共交通を活用する生活スタイルへの転換の呼びかけ ・無料対象者以外の層(若年層)に対するコミュニティバス利用の呼びかけ ・時刻表の配布(継続) ・接続する広域的な交通ネットワークの情報発信 ②地域公共交通計画(令和4年4月策定)に基づく事業の適切な実施

注: 評価にB、Cがある系統(市町村にあっては、目標の達成状況に関しての評価がB、C)、又は平均乗車密度が3.0を下回る系統については、具体的な取組内容と収支率の目標値を記載すること。

6. 地域公共交通計画(地域公共交通網形成計画)に記載した補助系統の目標と評価

		沿線市町村(□)			
目標	市町村名: 半田市	市町村名: 武豊町	市町村名: 0	市町村名: 0	
自己評価	R6末に市内全路線バス利用者数1,300人/日 目標値に近距離しないものの、令和5年度「R4.10-R5.3」の乗客数コミュニティバス利用者数は、4か月間(R4.11-R5.2)実施した市内8路線無料乗車券キャンペーンや、親しみやすい車内デザイン導入等、日々の情報発信、利用促進に取り組んだ結果、地区路線に比べるで107,596人、地区路線で20,015人と過去最高乗車人数を記録した。 ※過去最高値: 地区路線に比べる 79,287人(R3.10-R4.9) 地区路線 14,679人(R3.10-R4.9)	〈指標〉コミュニティバスの利用者数 〈目標値〉令和7年度: 72,000人/年(4月~3月年度) コミュニティバスの利用者数はコロナ禍から回復が著しく、令和5年度(R03.10-R04.09)の67,322人から今年度(R04.10-R05.09)は77,094人となり、前年度及び利用者目標値を大きく上回った。赤ルート(地域間幹線系統)、青ルート(フィーダー系統)共に過去最多の乗車人数を記録している。 引き続き、確保維持に努め、情報発信や利用促進等の事業実施を図る。			

7. 補助系統に接続するフィーダー系統の利用・接続状況

		沿線市町村(□)					
市町村名:	半田市	市町村名:	武豊町	市町村名:	0	市町村名:	0
半田市地区路線バスにぐる青山・成岩線が「青山駅」および「イオン半田店」バス停で接続している。2018年10月の新設以降右肩上がりで推移していた同線は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に伴う外出制限等により、R2に続きR3の利用者数も対前年比で減少したものの、上述のとおり、武豊町と連携した交通環境の整備や利用促進等により、R4以降は回復しており、R5に過去最高乗車人数を記録した。		・高齢者への無料乗車券交付事業等により利用者数は増加しており、フィーダー系統である青ルートの令和5年9月の利用者数は過去最多となった。 ・令和4年10月に青ルートは路線を延伸、コミュニティバスを補う交通手段である接続タクシーは制度改正した。					

通信欄 (この欄は関係者間で付記したいことや特記事項がある場合に利用する。県バス対策協議会事務局からの依頼事項についても記載する。)

※マクロを用いて集計しますので、セルの結合は絶対に変えないでください